

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①リンダ・グラットン著『未来企業』プレジデント社(323頁,四六判)</p> <p>前者で働き方の未来像を提示した著者が、今回は企業を構成する経営者や従業員に対して、未来の世界でどのような活動を、どのような方法で取り組むべきかを指南。不確実性を増す世界で最も重要な能力は「レジリエンス」(復元力)と強調。企業のレジリエンスでは、①職場環境②地域社会③グローバル社会の「三つの領域」を示し、取り組みを行っている企業の事例を日本も含め世界中から紹介、成長や利益のみでなく今後のあるべき姿をいかに描くべきかを問うている。さらに各企業の経営者も「果たすべき役割」「伸ばすべきスキルや能力」などが変わってくるとし、リーダーシップを再定義。著者は、未来の企業のあり方についての議論が深まることを望んでいる。</p>	<p>③渡辺深著『転職の社会学』ミネルヴァ書房(xvii+313頁,A5判)</p> <p>本書は、日米の労働市場におけるジョブ・マッチング過程について、米国の経済社会学者、グラノヴェッター教授が提唱する分析枠組み(「埋め込み」アプローチ)に基づいて行った、1985年～2002年の17年間にわたる6本の調査の結果である。東京とロサンゼルスの日米の労働者の共通点と相違点から、日本の労働者の転職行動の変化と特徴を明らかにした。分析の結果明らかになった変化は、日本のジョブ・マッチング過程で「人的つながり」の活用度が低下したこと、「強い紐帯」から「弱い紐帯」への変化。ソーシャル・ネットワークがジョブ・マッチングに与える影響を研究し続けた、日本の転職研究の第一人者の約20年にわたる地道な研究活動の集大成と言える。</p>
<p>②今野浩一郎著『高齢社員の人事管理』中央経済社(iv+VIII+195頁,A5判)</p> <p>急速な高齢化が進む日本。少子化が同時進行するため、今後の経済社会では、否が応でも高齢者の活躍が期待される。本書は、こうした環境下でも高齢社員を戦力化して経営力の向上につなげられ、高齢社員が能力を十分発揮できる人事管理モデルを提示。高齢社員は、多様な社員の1タイプだと位置づけ、その処遇は、60歳定年までは正社員、それ以降に再雇用された社員は非正社員として雇用する「1国2制度型」ではなく、「新しい人事管理」で行う必要があると主張。高齢社員の成果を正しく評価し、賃金などに適正に反映することを提唱している。著者の長年にわたる人事管理研究を活用し、具体的な制度・施策に結びつけるための考え方、視点、進むべき方向を示す。</p>	<p>④中野野佳著『「育休世代」のジレンマ』光文社(349頁,新書判)</p> <p>出産後も就労継続を望み、男性と同等の仕事に就くことを目指した総合職女性15人への綿密なインタビューを基に、なぜこうした女性たちの多くがその後職場をやめてしまうのかを探った。本書では、もともと大半の女性が「やりたいこと」や「やりがい」重視で仕事を選んできたと指摘。出産後こうした仕事に就いていても、「そこまですてやる仕事ではない」ものに変えられてしまうことが多いという。管理職女性は、ほとんど独身かDINKSといたつづき。本書は、産休や育休、育児支援制度が整った2003～08年に総合職として入社した「育休世代」の勝ち組女性の生きづらさを分析、その社会構造を明らかにしようとしている。修士論文を一般向けに加筆修正。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2014年10—11月労働図書館受け入れ)

⑤養老孟司著『「自分」の壁』新潮社(222頁,新書判)	⑩松田憲二著『介護施設の人材育成・仕事・賃金』産労総合研究所出版部経営書院(253頁, B5判)
⑥古市憲寿著『だから日本はズレている』新潮社(237頁,新書判)	⑪連合総合生活開発研究所編『賃金のあり方に関する論点整理』連合総合生活開発研究所(63頁, B5判)
⑦石川公一著『自治体職員と説明責任』ぎょうせい(344頁, A5判)	⑫いじめメンタルヘルス労働者支援センター著『職場のいじめ』労働相談 緑風出版(261頁, 四六判)
⑧連合総合生活開発研究所編『好循環』への反転を目指して』連合総合生活開発研究所(145頁, A4判)	⑬全国介護事業者協議会編『3・11を忘れない!』全国介護事業者協議会(106頁, A4判)
⑨浜辺陽一郎著『経営力アップのための企業法務入門』東洋経済新報社(318頁, A5判)	⑭家計経済研究所編『女性と労働』家計経済研究所(140頁, A4判)
⑩伊吹英子著『C S R経営戦略』東洋経済新報社(318頁, A5判)	⑮川喜多香著『組織改革論集・労働組合編』新翠舎(305頁, A5判)
⑪今井佑著『経営者支配とは何か』文眞堂(xv+349頁, A5判)	⑯伊藤幹郎著『労働審判を使いこなそう!』エイデル研究所(253頁, A5判)
⑫労務研究所編『福利厚生をどう考えるか』労務研究所(74頁, AB判)	⑰片山雅也他編『労働紛争解決のための民事訴訟法等の基礎知識』労働調査会(279頁, A5判)
⑬小幡道昭著『労働市場と景気循環』東京大学出版会(xiv+251+5頁, A5判)	⑱上松司著『会社習慣病』マイナビ(207頁, 新書判)
⑭社会保険広報社編『ねんきん便覧』社会保険広報社(64頁, B5判)	⑲増田仁著『高度経済成長期における家事労働者形成過程の再検討』風間書房(iii+175頁, A5判)
⑮福岡聡著『格差の時代』の労働論』現代書館(245頁, A5判)	⑳島津明人著『ワーク・エンゲイジメント』労働調査会(157頁, A5判)
⑯河野順一著『労使トラブル解決マニュアル』酒井書店(20+502頁, A5判)	㉑中内功記念館編『キャッシュレジスターの歴史』流通科学大学(48頁, A4判)
⑰浅井隆編著『最近の労働裁判例27』労働調査会(viii+251頁, A5判)	㉒大泉一貫著『希望の日本農業論』NHK出版(237頁, 四六判)

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書115,000冊、洋書30,000冊、和洋の製本雑誌25,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30～17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

労働図書館 HP: <http://www.jil.go.jp/lib/index.htm>

利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

